

アブラムシ類に寄生する土着天敵（寄生蜂）の種類

高知県の主要作物であるナスおよびピーマンでは、ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、チューリップヒゲナガアブラムシによる被害が問題となっており、防除対策のひとつとして、導入天敵であるコレマンアブラバチが利用されています。しかし、土着天敵にも有望な種類がいる可能性が高く、その利用技術の確立が求められています。

そこで、高知県内には、どのようなアブラムシ類の土着天敵（寄生蜂）がいるのかを明らかにするため、施設栽培ナス、ピーマンおよび露地の雑草等からアブラムシのマミー（寄生蜂の幼虫が蛹になるため、アブラムシの体内で繭を作った状態のもの）を採集し、種類を調べました。

上記4種のアブラムシに寄生する寄生蜂として、日本国内では、アブラバチ13種、アブラコバチ6種が報告されています。これらのうち、高知県ではアブラバチ5種、アブラコバチ3種を確認しました（表1）。その中で、*Aphidius gifuensis*（ギフアブラバチ）、*Lysiphlebus japonicus*（ニホンアブラバチ）、*Aphelinus varipes*の3種は、施設ほ場で多く見つかり、施設内で発生したアブラムシ防除に利用できる可能性が考えられました。また、*A. asychis*（チャバラアブラコバチ）は、県内での発生は少なかったものの、

ジャガイモヒゲナガアブラムシに対する寄生率が高いことから、有望種のひとつであると考えられました（表2）。

表1 高知県内で採取したアブラムシ土着寄生蜂の個体数

種名	(和名)	施設ほ場	露地ほ場
コマユバチ科:アブラバチ亜科			
[導入種]			
<i>Aphidius colemani</i>	(コレマンアブラバチ)	76	2
[在来種]			
<i>Aphidius gifuensis</i>	(ギフアブラバチ)	53	94
<i>Lysiphlebus japonicus</i>	(ニホンアブラバチ)	38	15
<i>Diaeretiella rapae</i>	(ダイコンアブラバチ)	0	80
<i>Ephedrus plagiator</i>		8	8
<i>Lipolexis gracilis</i>		5	0
ツヤコバチ科 [在来種]			
<i>Aphelinus gossypii</i>	(ワタアブラコバチ)	0	2
<i>A. asychis</i>	(チャバラアブラコバチ)	0	12
<i>A. varipes</i>		41	11

(平成13年3月～平成15年3月)

表2 ジャガイモヒゲナガアブラムシに対する土着寄生蜂の寄生率

種名	(和名)	アブラムシ数	マミー数	寄生率(%)
<i>Aphidius gifuensis</i>	(ギフアブラバチ)	40	39	97.5
<i>Lysiphlebus japonicus</i>	(ニホンアブラバチ)	40	0	0
<i>Ephedrus plagiator</i>		40	1	2.5
<i>Lipolexis gracilis</i>		40	1	2.5
<i>Aphelinus asychis</i>	(チャバラアブラコバチ)	40	33	82.5
<i>A. varipes</i>		40	21	52.5

[昆虫科 下八川裕司]